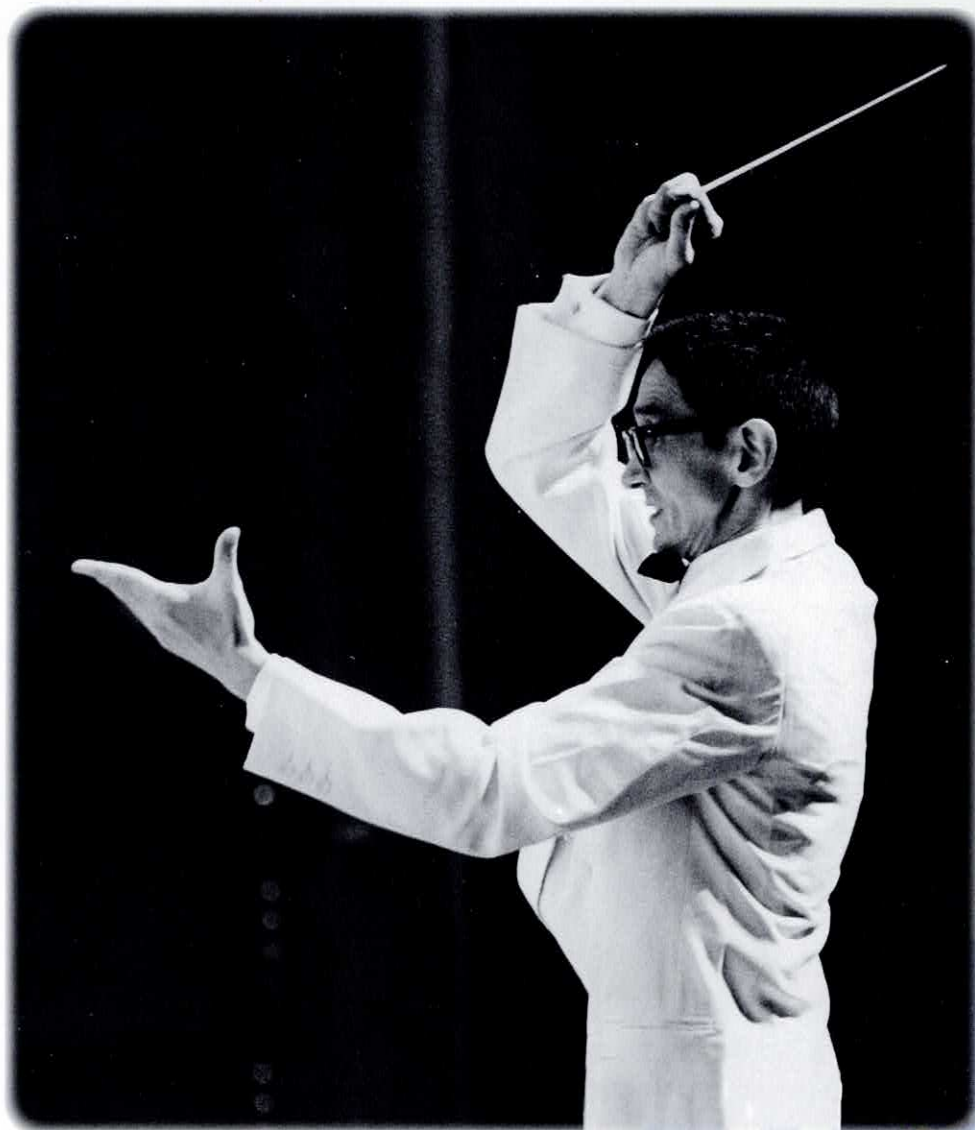


福永陽一郎

生誕100年記念コンサート

陽ちゃんといっしょ



2026年1月10日(土)

藤沢市民会館大ホール

Program

1 湘南コール・グリーン

《Petite Suite (小組曲)》 小舟にて / 行列 / メヌエット / 踊り

作詞 安田 二郎 作曲 C.ドビュッシー 編曲 福永 陽一郎
指揮 榊原 哲 ピアノ 山田 美帆

2 ジャパン・アカデミー・コーラス

《The Sound of Music》より

The Sound of Music / My Favorite Things / Do Re Mi / Edelweiss

作詞 O.ハーマースタイン2世 作曲 R.ロジャース 編曲 福永 陽一郎
指揮 木下 利彦 ピアノ 白井 秀馬

3 小田原男声合唱団

森の歌声 作詩 三沢 郷 アメリカ学生歌 編曲 福永 陽一郎

《北原白秋作品》より この道 / 帰ろ帰ろ / あわて床屋

作詩 北原 白秋 作曲 山田 耕筈 編曲 福永 陽一郎
指揮 辻 秀幸

Intermission

4 藤沢福音コール

新しい歌を主に向かって歌え 作曲 武 義和

Ubi Caritas 作曲 O.イエイロ

O Holy Night 作曲 A.アダン 編曲 R.リングヴァルト

指揮 小久保 大輔 ピアノ 藤田 智栄子

5 クローバークラブ (同志社グリークラブOB合唱団)

Ave Maria 作曲 J.アルカデルト

Dixie アメリカ民謡 編曲 福永 陽一郎

おてもやん 熊本地方民謡 編曲 福永 陽一郎

赤とんぼ 作詩 三木 露風 作曲 山田 耕筈 編曲 福永 陽一郎

指揮 小嶋 響

6 藤沢男声合唱団

《チャイコフスキー歌曲集》より

何故?／再びもとのように孤独で／憧れを知る者のみが／ドン・ファンのセレナーデ

作詩 H.ハイネ(露訳 L.A.メイ)／D.M.ラトガウス／J.W.ゲーテ(露訳 L.A.メイ)／A.トルストイ

作曲 P.I.チャイコフスキー 編曲 福永 陽一郎

指揮 吉川 貴洋 ピアノ 黒澤 美雪

Intermission

7 西南学院グリークラブOB

男声合唱組曲《中勘助の詩から》より

I 絵日傘／II 椿／IV ほほじろの声／VII 追羽根 作詩 中 勘助 作曲 多田 武彦

指揮 宮原 継男

8 早稲田大学グリークラブOB会有志

O Holy Night 作曲 A. アダン 翻案 J.S. ドワイト 編曲 福永 陽一郎

指揮 川元 啓司

《十の詩曲》より 歌 作詞 安田 二郎 作曲 D.ショスタコーヴィチ 編曲 福永 陽一郎

指揮 田中 宏

9 法政大学アカデミー合唱団 現役・OBOG

《ラ・マンチャの男》より The Impossible Dream ～見果てぬ夢～

作詞 J.ダリオン 作曲 M.レイ 編曲 福永 陽一郎

指揮 尾崎 徹 ピアノ 巨瀬 励起

My Way 訳詞 安田 二郎 作曲 C. フランソワ / J. ルヴォー

指揮 小久保 大輔 ピアノ 巨瀬 励起

夜のうた 作詞 阪田 寛夫 作曲 佐々木 伸尚

指揮 小野澤 春紀

10 合同ステージ

歌劇《ナブッコ》より 行け、我が思いよ、黄金の翼に乗って 作曲 G.ヴェルディ

フィンランディア讃歌 作詞 安田 二郎 作曲 J.シベリウス

指揮 吉川 貴洋 ピアノ 黒澤 美雪

9 法政大学アカデミー合唱団 現役・OBOG

《ラ・マンチャの男》より The Impossible Dream ～見果てぬ夢～ 作詞 J.ダリオン 作曲 M.レイ 編曲 福永 陽一郎

My Way 訳詞 安田 二郎 作曲 C. フランソワ / J. ルヴォー

夜のうた 作詞 阪田 寛夫 作曲 佐々木 伸尚

《ラ・マンチャの男》より The Impossible Dream ～見果てぬ夢～

この曲は福永先生が元々男声版であった曲を当団の為に混声に編曲してくださった曲です。初演は1973年の「スプリングコンサート」で「ブロードウェイ・ミュージカル集(Musical! Musical!)」の一曲として演奏されました。最初の編曲は一度だけの半音転調でしたが、以降再編曲の度に半音転調が増え、最終的に3回の転調をしてクライマックスを迎えるという先生得意の編曲パターン。歌い手は否が応でも盛り上がり、「見果てぬ夢」に向かって突き進むエネルギッシュな曲は、その後、後輩たちへ脈々と受け継がれ、50年以上経った今でも「My Way」「夜のうた」とともにアンコールとして歌われる特別な曲になっています。

そもそもこの曲を含むミュージカル「ラ・マンチャの男」は1965年にニューヨークの劇場で初演され大当たりしました。物語は原作者セルバンテスが自らの無実を証明しようとする牢獄中のシーンから始まり、小説「ドン・キホーテ」の劇中劇のスタイルを取って進んでいきます。年老いたドン・キホーテが叶え難い夢を叶える為に立ち上がり(実際には腰砕けしてしまうのだが)、クライマックスで歌うのが、この曲です。ミュージカル全体に散りばめられたジブシー音楽であるスペインのフラメンコ形式を大胆に取り入れたことで、ラヴェルの「ボレロ」を想起させるような高揚感を生み出すことに成功しています。

My Way

「いま船出を知らせる鐘が鳴る」に始まり「そこにはいつでも歌がある」で終わるこの曲の訳詩をした安田二郎が著作権協会に登録されている福永先生のペンネームであることは広く知られています。先生の中学時代の音楽仲間にして最大の親友であった安田保正と松丸二郎とは、2人が戦死したことで再会を果たすことが永久に不可能になりました。特に海軍の飛行機乗りだった安田保正は素敵な美声のハイバリトンでシューベルトやシューマンを歌い、もし生きていたら日本音楽界のリーダーの1人になっていただろう、と先生は著書『演奏ひとすじの道』で語っています。また、もし彼が生きていたら自身はピアニストをのちのちまで止めず、ピアノを弾き続けていたかもしれない、とも…。先生の心の中に2人はずっと生き続けていたのでしょう。

元々の原詞は、主人公の死が近づく中、人生で起こった全ての苦悩に対し自分がしてきたことを後悔せず、むしろ自信を持っていることを力強く語っていますが、先生は私たち学生にこの4年を振り返らせ、そこにはいつでも友と歌った歌があっただろうと諭し、卒団生達を送り出す最後の歌として書き上げました。先生がこの曲のタクトを振るとき、卒団生一人ひとりに笑顔で目を合わせていく温かな優しい眼差しを、私たちは今も忘れられません。

夜のうた

当団の演奏会でアンコールのクロージングソングとして50年以上にわたり必ず歌われてきた特別な曲。団が続く限り恐らくこれからも愛され、歌い継がれて行く歌です。

この曲が歌われるようになったキッカケは、1972年の春、福永先生のご自宅でカワイ出版混声合唱曲集の1ページを先生が当時の学生指揮者に示し「今度の演奏会、この曲をアンコールでやりたいから練習しておいて」と告げたことでした。その学生指揮者は持ち帰り懸命に練習を重ねたのでした。当時、春のコンサートは「スプリングコンサート」と称して、新入生の初ステージでもある爽やかで温かな演奏会でした。本番に向けての岩井海岸での合宿で、いきなり先生にそのクロージング曲を「振ってみて」とタクトを渡され、学生指揮者は緊張の面持ちで何とか最後まで振り切った、そのあと、長い脚を組んでベース側で静かに聴いていらした先生がタクトを受け取り何も話さずおもむろに振り始めたのです。最初のフレーズで自身が振ったものとは全く違う曲に聴こえ、足が震える程の衝撃を受けたと当時の学生指揮者はのちに語ってくれました。特に、楽譜上では「Andante」と表記されているテンポを先生は「Largo」よりも遅く振り始め、しかもその最初の1拍に団員は何の戸惑いもなく乱れず歌い始めたことが不思議でならなかったそうです。

作曲者の佐々木伸尚氏は福永先生の中学での6歳下の後輩にあたり、大学のグリークラブでは音楽について先生から色々教えてもらったと、当団50周年演奏会のプログラムパンフに寄稿して下さっています。



指揮 尾崎 徹(おざき とおる)

1958年北九州市門司生まれ。4歳よりピアノを始める。中・高とプラスバンドに熱中するも、大学入学後の福永先生との出会いがその後の合唱人生を位置付ける。先生から直接指揮法を教わる代わりにタクトをフライボールに例えて分かりやすく説明して下さったことが特に印象深く心に残っている。卒業後は1991年からOB合唱団の指揮を務める傍ら、現役生の定期演奏会や現在も複数の一般合唱団を指揮指導している。



ピアノ 巨瀬 励起(こせ れいき)

東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。声楽及び合唱の伴奏者、室内楽奏者、オーケストラの鍵盤楽器奏者として活動。また東京二期会など様々な団体のオペラ公演にスタッフとして参加。ソロにも意欲的に取り組み定期的にリサイタル等を開催。新国立劇場「バレエ・アステラス」ではピアノ協奏曲が用いられる演目でこれまでにガルフォース指揮/東京フィル、マーフィー指揮/東京オーケストラ MIRAI、バ克蘭指揮/東京シティ・フィルと共演。CD・配信: 松本隆(訳)/鈴木准(テナー)「シューベルト・白鳥の歌」(日本コロムビア)他。

© Ayane Shindo



指揮 小野澤 春紀(おのざわ はるき)

法政大学デザイン工学部都市環境デザイン工学科3年。東京都出身。指揮法を高坂徹氏に師事。入団以前に本格的な合唱経験はなく、それゆえに他人の意見を取り入れたりするなど、先入観のない、柔軟なやり方で団員を指導する。

指揮 小久保 大輔(こくぼ だいすけ)

プロフィールは、藤沢福音コールのページに掲載しています



2011.7.10 法政大学アカデミー合唱団50周年記念フェスティバル(於 人見記念講堂)

合唱団紹介

法政大学アカデミー合唱団は、福永陽一郎先生が1961年に設立し2026年には創立65周年を迎えます。在団・卒団生は1,400名を超え、現在は福永先生のお孫さんである小久保大輔先生に音楽監督としてご指導頂いています。OBOGは、1991年福永先生の追悼演奏会で初めて単独でステージに立って以降、1996年に第1回演奏会を開催、これまでに12回の演奏会を重ねてきました。また、現役生が毎年初夏に開催するアーリーサマーコンサートへのOB出演など、在団・卒団の垣根を越えて相互の親睦と支援及び活動の維持強化に力を入れています。

法政アカデミーと福永陽一郎先生との出会いは、先生がご自宅から乗降される沿線で、偶々合唱譜を開いていた在団生に声をお掛けになったことがきっかけだったそうです。当時は学生運動が激しく練習するにも困難を極めた時代だったと聞いています。

先生は、私たち学生に芸術性の高い合唱曲を数多く歌わせ、国内のみならずヨーロッパの聴衆にも聴かせる演奏で、私たちに歌う喜びと感動を与え続けてくださいました。そして、当時大学混声合唱団がなし得なかった「全日本合唱コンクール3年連続金賞」受賞という栄誉にも導いて下さいました。

あまりお酒は飲まれない中、練習後の飲み会にお付き合い頂いたこともありました。会計時にはその日の謝礼封筒から全員の会計を支払おうとされたことも。合宿での宴会芸披露にも深夜最後までお付き合いくださり、大きな手を叩いて顔をクシャクシャにして大笑いされていたことが印象に残っています。

子どもや孫の年齢の在団生にも和やかな笑顔で分け隔てなく話を聞いて下さる懐の深い方でしたが、一旦音楽に向えば学生だろうが妥協を許さない厳しさで、しかし丁寧にご指導下さる姿が目に残っています。先生が亡くなる3ヶ月前にタクトを振られた「イタリアオペラ合唱曲集」は渾身の演奏として永く語り継がれています。

【OBOG】

Soprano	石川 雅子 伊藤 智子 江端 身知子 木村 朋子 工藤 由利 高坂 一重 高橋 京子 武信 和恵 橋本 恭子 林 ひさ子 半澤 幸子 深田 優子 眞壁 雅子 八木 静子
Alto	伊藤 晶子 岩崎 初音 岡崎 方子 片桐 亮子 鎌田 雅子 川手 由喜子 櫛淵 由美子 小池 宏美 関 千恵子 中村 弘子 藤木 富美子 吉江 いづみ 吉光 育子 米村 久美子
Tenor	石井 登雄 伊藤 雅彦 伊藤 泰志 奥野 浩樹 国井 啓之 黒澤 徳治 小濱 剛 眞壁 修 眞壁 伸介 吉江 章 吉田 亘
Bass	飯島 哲也 尾崎 徹 金竹 俊夫 神谷 信宏 小宮山 和彦 佐川 浩二 高森 洋樹 田中 透 田中 誠 中村 克久 奈良 英生 村山 充男 吉田 和典 渡辺 直三 / 小久保 大輔

【現役】

Soprano	石川 愛華 今井 優歌 上田 愛実 小林 由佳 永岡 ゆきほ 本城 百花 丸山 彩
Alto	岩藤 あい 鈴木 芽生 長谷川 有寿 原田 ほのか 若松 とわ
Tenor	大坂 悠暉 斎藤 拓空 指旗 義也 白羽 優之介 新堂 大知 森岡 賢祐
Bass	小野澤 春紀 宮本 朔之 森田 寛爽 葉 書修

新しい歌を主に向かって歌え 作曲 武義和

Ubi Caritas 作曲 O. イェイロ

O Holy Night 作曲 A. アダン 編曲 R. リングヴァルト

新しい歌を主に向かって歌え

この歌詞は、ラテン語では「Cantate Domino」として親しまれ、主に旧約聖書の詩篇(特に詩篇98篇、96篇、149篇など)のフレーズに由来するものです。神が人々に示した驚くべき救いの御業(みわざ)や、新しい時代の到来を喜び、それを「新しい歌」で賛美せよ、と呼びかけるものです。

作曲家の武義和(たけよしかず)氏は、日本の合唱界で活動されており、特に“自由の森学園”の創設に携わり、長年音楽教員を務めてきた人物として知られています。この曲は、伝統的なラテン語の聖歌テキストに、日本人にとって歌いやすく、親しみのある深い感動を誘う和声と、力強くも優しさに満ちた旋律が与えられていると思われます。

聖書のテキストが持つ「喜び」「賛美」「希望」といったメッセージを、日本の合唱文化に根差した表現で伝える、貴重な「Cantate Domino」の一つと言えます。

Ubi Caritas

この歌詞、「Ubi Caritas et amor, Deus ibi est(愛といつくしみのあるところに、神がおられます)」は、カトリック教会をはじめとするキリスト教の典礼で、数世紀にわたって歌い継がれてきたラテン語の聖歌です。

特に聖木曜日(復活祭前の木曜日で、主の晩餐のミサが行われる日)の典礼ではしばしば歌われます。聖木曜日は、イエス・キリストが弟子たちの足を洗ったことと、最後の晩餐で愛の戒めを与えたことを記念する日です。

このため、「Ubi Caritas」は、隣人愛、奉仕、そして兄弟愛というキリスト教の核心的な教えを象徴し、信徒間の一致と平和を願う祈りとして重要な役割を果たします。

今回演奏する合唱曲は、この歌詞にノルウェー出身の現代作曲家、オーラ・イェイロ(Ola Gjeilo, 1978-)が特有の美しく透明感のある現代的な和声と旋律をつけたものです。

イェイロの楽曲は、この伝統的なテキストに、ゆったりとしたテンポと豊かな響き、そして静かにうねるような和声進行を与えています。その音楽は、中世の聖歌が持つ清らかさに、現代の音楽に通じる浮遊感や瞑想的な要素を加えており、聴き手に深い精神的な平安をもたらします。

O Holy Night

この曲は、フランスの作曲家アドルフ・アダン(Adolphe Adam, 1803-1856)によって1847年に作曲されました。原題はフランス語「Cantique de Noël」(クリスマスの賛美歌)で、詩人プラシド・カポーが1843年に書いた詩に基づいています。荘厳ながらも温かみのあるアダンのメロディは、救世主イエス・キリストの誕生を祝い、「希望の光」が罪と闇に覆われた世界に訪れた喜びを力強く歌い上げています。フランス語の冒頭の歌詞から「Minuit, chrétiens」(真夜中だ、キリスト教徒たちよ)とも呼ばれています。

そして1855年に、アメリカの聖職者ジョン・サリバン・ドワイト(John Sullivan Dwight)が英語の歌詞を付けたことで、「O Holy Night」として広く知られるようになり、一躍世界的なクリスマス・キャロルの定番となりました。日本語の歌詞は、牧師で教会音楽研究家の由木康(ゆうき こう)によって訳され、「さやかに星はきらめき」として広く親しまれています。



指揮 小久保 大輔(こくぼ だいすけ)

指揮者。東京音楽大学器楽科卒業。桐田正章、汐澤安彦の各氏に指揮を、林昭世氏にトランペットを師事。在学中よりアマチュアオーケストラの指導にあたり、2001年、横浜カントレー公演にて指揮活動を開始。2009年より劇団四季にてミュージカル作品の指揮も担当。現在、ラスベート交響楽団(常任指揮者)/鎌ヶ谷フィルハーモニック管弦楽団/村上正治記念

ちばマスターズオーケストラ等の管弦楽団、およびマルティナショナルプラスアンサンブル(音楽監督)/東京農業大学全学応援団吹奏楽部/早稲田の杜金管合奏団/JADM ハーモニオオルケスト等の吹奏楽団、法政大学アカデミー合唱団(音楽監督)/横浜ルミナス・コール(常任指揮者)/藤沢福音コール/女声合唱ふじ等の合唱団において指揮者を務めている。また、DOBS2020(男声合唱団)技術顧問/学習院OB合唱団顧問も務め、アマチュア音楽活動に幅広く携わっている。



ピアノ 藤田 智栄子(ふじた ちえこ)

桐朋学園短期大学、武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。ピアノを斎藤いづみ、加藤伸佳、日高正枝、パイプオルガンを竹前光子、チェンバロを古賀裕子の各氏に師事。現在は後進の指導にあたりとともに、宗教曲を多く伴奏。藤沢福音コールオルガニスト、カトリック藤沢教会オルガニスト、大和市音楽家協会会員、清泉女学院中学高等学校教諭。

歌劇《ナブッコ》より 行け、我が想いよ、黄金の翼に乗って 作曲 G.ヴェルディ

フィンランディア讃歌 作詞 安田 二郎 作曲 J.シベリウス

指揮者 福永陽一郎

指揮者、福永陽一郎を語る上で欠かせないのが、オペラ指揮者としての足跡である。20代より藤原歌劇団やNHKイタリアオペラなどで長く活躍し、オペラ作品の精緻な解釈と、歌手一人ひとりの声を生かす柔軟な指揮、また合唱の表現力を劇的に引き出す力量で高く評価されていた。のちに転居した藤沢の地で全国に先駆けて市民オペラを創始、1990年に逝去するまで最高責任者として、この事業をリードし、支え、育て上げた。

藤沢市民オペラは第1回から現在まで「ソリストはプロ、オーケストラと合唱はアマチュア」という形が継承されているが、氏の卓越した音楽性と指導力により「プロの技術とアマチュアの情熱の融合」が可能となったことは言うまでもない。本日のメンバーの中にも、藤沢市民オペラ出演の経験を持つ者が多く含まれている。

福永陽一郎が作詞・訳詞を行う際には「安田二郎」というペンネームを用いた。この名は、太平洋戦争で戦死した二人の親友の名前に由来する。個人的な悲しみを胸に秘めつつも、音楽作品を通して平和と希望のメッセージを表現し続けた氏の姿を彷彿とさせるエピソードである。

合同ステージでは、今も音楽の中で生き続けておられる福永先生への感謝を込めて、オペラ、オーケストラ作品に因んだ合唱曲の中でも、特によく演奏された2曲を演奏する。

歌劇《ナブッコ》より「行け、我が想いよ、黄金の翼に乗って」

イタリアの作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)のオペラ《ナブッコ》は、彼の名を国中に知らしめた出世作で、1842年に初演された。その中でも第3幕に登場する合唱「行け、我が想いよ、黄金の翼に乗って」は、作品全体の象徴ともいえる名場面である。舞台は古代バビロン。故郷エルサレムを追われ、異国の地で捕囚の身となったヘブライの民が、祖国を思い、望郷の念をこめて歌う。歌詞には「我が祖国よ、美しくも失われし国よ」「ヨルダンの岸、シオンの塔」といった言葉が並び、民の深い悲しみと郷愁が静かに、しかし心に強く響く。

ヴェルディはこの合唱に、抑制された旋律美と深い情感を込めた。冒頭から流れる密やかなメロディにより、民族の嘆きが静かな祈りのように心の奥底へ染み入る。そしてクライマックスの柔らかな高まりが、聴く者にほのかな希望の光を感じさせる。この曲は、単なる劇中の一場面を超えて、ヴェルディの音楽に宿る人間愛と自由への願いを象徴するものとなった。

19世紀イタリアでは、オーストリア支配からの独立運動が高まりつつあった。ヘブライ人の嘆きはそのままイタリアの民衆の感情と重ねられ、やがてこの合唱は「イタリアの第二の国歌」とも呼ばれるようになった。

《ナブッコ》の中で最も広く親しまれ、オペラの枠を超えて独立した合唱曲として演奏されることも多い。この曲の切々とした美しい旋律と普遍的なメッセージは、国や時代を越えて人々の心を打ち続けている。

フィンランディア讃歌

《フィンランディア讃歌(Finlandia-hymni)》は、フィンランドの作曲家ジャン・シベリウス(1865-1957)が1899年に作曲した交響詩《フィンランディア》の中間部に基づく合唱曲である。

原曲《フィンランディア》は、当時ロシア帝国の支配下にあったフィンランドの民族的覚醒を象徴するオーケストラ作品で、圧政に抗う民衆の精神を音楽で描いたものだった。激しい闘争を思わせる序盤から、やがて現れる穏やかな旋律——それが後に《フィンランディア讃歌》として独立し、国民的愛唱歌となる部分である。

この部分は、北欧の大地を思わせる雄大さと敬虔な祈りに満ちた荘厳さを併せ持つ、深い静けさの中から始まる。後半にかけて音楽は高揚し、民の誇りと希望を力強く歌い上げる。その清冽で力のあるメロディは、人々の心をひとつにする象徴として、フィンランドの人々に愛され続けている。

やがてこの《フィンランディア讃歌》は、言語を超え、世界各地で独立した合唱曲として親しまれるようになった。日本でも、堀内敬三や唐沢史比古などにより日本語の詞が作られ、教科書にも掲載されるなど、広く歌われてきた。福永陽一郎はこの曲を愛し、自ら作詞を行った上で、オーケストラ、合唱団の演奏会で取り上げ、福永傘下の音楽団体共通のレパートリーとして定着したものである。福永先生ご逝去後の1990年10月、氏が生前最期まで携わった藤沢市民オペラ《ファウスト》の千秋楽でも、フィナーレとして交響詩《フィンランディア》が合唱付で演奏された。本日はシベリウス自身が編曲したピアノ独奏版を伴奏として使用する。

フィンランディア讃歌 作詞 安田 二郎 作曲 J.シベリウス

はるかなる 山のかなた のぞみに あふれる国

祖国よ 今われは呼ぶ 心の ふるさとよ

祖国よ 今われは呼ぶ 心の ふるさとよ

みどりなす 山よ河よ 海辺に くだける波

祖国よ 今帰りゆく 心の ふるさとよ

祖国よ 今帰りゆく 心の ふるさとよ

祖国よ 父なる国 ああ

JASRAC 出 2509700-501



指揮 吉川 貴洋 (よしかわ たかひろ)

慶應義塾大学理工学部卒業。同大学大学院理工学研究科修了。2003年まで松下電器産業株式会社(現、パナソニック株式会社)に勤務した後、指揮者として活動を始める。幼少よりオペラ・合唱に親しみ、11歳のときには東京室内歌劇場『アマールと夜の訪問者』(栗山昌良演出)にアマール役として出演。また、大学在籍中より20年にわたり故畑中良輔氏の下で研鑽を積み、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団、同OB合唱団等を指揮し好評を得る。現在は、藤沢男声合唱団、伊藤忠社友会コール青山、混声合唱団水曜会、混声「調」、クール・マチュール、混声合唱団みなとみらいLaRa等の音楽監督、常任指揮者を務める他、多くの団体の指揮、指導を行う。その指導法は、発声の基本を軸に豊かなハーモニーを目指し、曲本来の魅力を引き出すものとして各団体から大いに支持されている。オペラやオーケストラ伴奏の合唱曲の経験も豊富で、楽曲の的確な把握に基づき合唱団をより良い演奏へと導くその手腕には定評がある。特に藤沢では《魔笛》《カヴァレリア・ルスティカーナ》《道化師》《メリー・ウィドウ》等、市民オペラの合唱指揮を務め、藤沢男声合唱団では福永陽一郎編曲作品を定期的に取り上げ、その作品の継承に力を注いでいる。指揮法を故北村協一氏に師事。近年は歌手としても活動し、その歌唱力も高く評価されている。



ピアノ 黒澤 美雪 (くろさわ みゆき)

東京藝術大学ピアノ科卒業。国際ロータリー財団奨学生として、オーストリア・ザルツブルクのモーツァルテウム音楽大学に留学。東京文化会館、NHK 洋楽 オーディション合格、マリアカナルス国際コンクールディプロム受賞。藤沢では、1985年福永陽一郎指揮「アイダ」以来長年にわたって、市民オペラや「第九」、ヴェルディ「レクイエム」等の合唱作品の公演に音楽スタッフとして参加する他、数多くの公演に出演、市の文化活動に貢献している。また、湘南白百合学園中学・高等学校の教諭、教頭として女子教育に携わり、多くの人材を輩出してきた。合唱では、藤沢男声合唱団、同志社大学グリークラブ、慶應義塾ワグネルソサイエティOB合唱団、湘南市民コールなど多数の団体、福永陽一郎氏、畑中良輔氏をはじめとする多くのマエストロと共演。福永陽一郎氏のもとでは、ピアノ協奏曲のソリスト、藤沢市民オペラの音楽スタッフ、また、氏の最期のステージ、1989年12月の同志社大学グリークラブ第85回定期演奏会でもピアニストを務めた。

陽ちゃんといっしょ



1983年 早稲田大学グリークラブ 春合宿 御宿にて



1988年8月 JAC/ハワイ演奏旅行



1983年4月25日 早稲田大学グリークラブ 陽ちゃんお誕生会(いねや)



1988年8月 JAC/ハワイ演奏旅行 北村協一先生と



1982年7月 法政大学アカデミー合唱団 ヨーロッパ演奏旅行



1985年夏 西南学院グリークラブ ザルツブルグのモーツァルト生家前で



1982年7月 法政大学アカデミー合唱団 ヨーロッパ演奏旅行



1985年夏 西南学院グリークラブ ヨーロッパパカンターにて
早稲田大学グリークラブとジョイント演奏 ピアノは久邇之宜先生



1988年8月 JACハワイ演奏旅行



1985年夏 西南学院グリークラブ ヨーロッパカンタート会場にて 久邇之宜先生と

Yoichiro FUKUNAGA



1981年6月 法政大学アカデミー合唱団創立20周年記念で指揮棒を贈呈する



1974年 同志社グリークラブ 世界大学合唱祭リンカーンセンター(四つの仕事歌)



同志社グリークラブ 毎年恒例の野尻湖合宿(フレッシュにとっては少々恐怖の洗礼式が待ち受けている)

福永陽一郎年譜

神戸

- 1926 4.30 神戸市須磨区衣掛町に生まれる。
父は牧師で関西学院グリークラブOB。母は幼稚園長
- 1931 (5歳) 父の計画で、ヴァイオリンを習うはずであったが、1/4楽器の入手が困難であったため断念
- 1932 (6歳) 増田正氏に師事開始。ピアノと作曲初歩。
この経験が後の音楽活動の原点となる。
- 1933 (7歳) 1. 大阪・三木ホールにて初舞台(ピアノ)
4. 神戸市、須磨小学校入学。神戸市内全小学校学芸会に出演。
- 1935 (9歳) 8.9 父の死。正規の音楽教育の停止
- 1939 (13歳) 関西学院中学部入学。グリークラブに籍を置く。増田正氏に師事再開
9. 神戸市海員会館での「朝日子供の会」に出演

福岡

- 1940 (14歳) 4. 母の西南学院大学・児童教育科着任に伴い福岡に移住。
西南学院中学部に転校。ピアノを高橋暁夫氏に師事
- 1941 (15歳) 11. 西南学院高等部グリークラブの定期演奏会に賛助出演(ピアノ独奏)。初めて演奏謝礼を受ける
- 1942 (16歳) 11. 福岡市男子中学音楽連盟を結成。演奏会を開催
- 1943 (17歳) 1. 井口基成氏に師事を開始
11. ミュージカル《護王太平記》台本を書き自費出版
- 1944 (18歳) 3. 《護王太平記》音楽完成。横田孝氏の演出・指揮で上演(西南学院演劇部)

東京

4. 東京音楽学校(現・東京藝術大学)本科ピアノ科入学。
豊増昇氏に師事開始
- 1945 (19歳) 3月10日の空襲で東京の下宿が全焼。福岡に帰る

福岡

- 福岡で初の放送出演(JOLK)
5. 応召を前に、自らの「告別演奏会」を開催
- 5.15 佐賀の陸軍・西部194部隊に入隊
- 9.4 復員
- 9.30 戦死した親友・安田保正氏の追悼演奏会を氏の姉君と開催。
作詞のペンネーム「安田二郎」は、この友に因んだもの
熊本市でのピアノリサイタル(10月・11月)
- 1946 (20歳) 1. 長崎市でリサイタル

東京

- 2.24 復学。お茶の水の東京音楽学校分校に住む。
アルバイトでジャズ・バンド生活を始める。また明治大学
音楽部管弦楽団の指揮者をつとめる
4. 初めてオペラを観る。ピゼー《カルメン》
- 7.21 福岡市での初のリサイタル
- 9.30 岩手県水沢市でリサイタル。この後、半年間放浪生活を送る
- 1947 (21歳) 3.21 ピアニストとして東宝交響楽団入団
- 3.26 東京音楽学校楽友会演奏会に出演
5. 神戸・垂水に「さみどり合唱団」設立
- 7.12 ワグナー《タンホイザー》の日本初演。初めてオーケストラ・ピットに入り、ハーブのパートをピアノで弾く
8. 近衛秀麿氏のもとに入門

- 1948 (22歳) 1. 東京音楽学校中退。藤原歌劇団との関わりの中で、多くのオペラに携わる
- 4.17 熊本でリサイタル
- 5.10 「東京ヌーヴェットオール合唱団」設立(後のエオリアン・コール)
- 8.22 岡山でリサイタル
- 8.29・30 福岡でリサイタル
- 12.28 神戸でリサイタル
- 1949 (23歳) 8. 東宝交響楽団退団。福岡に帰る

福岡

9. 「福岡・筑紫野合唱団」の専任指揮者に迎えらる
9. 「西南カレッジイト・コーラル・ソサイエティ」を創立。
同じころ、「福岡歌劇研究会」を設立
- 1950 (24歳) 福岡に於て、盛んに演奏活動が続ける
4. 西南学院神学部に入団。グリークラブに籍を置く

東京

- 1951 (25歳) 2. 再び上京。藤原歌劇団入団。グルリットの副指揮者となる
- 9.1 《ミニヨン》の日本初演に際し、初めて正式に合唱指揮者としてプログラムに載る
- 11.5 福岡にて暁子夫人と結婚
- 1952 (26歳) 2. 畑中良輔氏と共にプロ合唱団「東京コラリアーズ」を創立
- 5.27 《タンホイザー》公演に際し、補助指揮として名前が載る

藤沢

10. 藤沢市に転居
- 12.14 長女・朋子さん生まれる
- 1953 (27歳) 4.2 プッチーニ《外套》を指揮、日本初演(藤原歌劇団青年グループ)
- 9.20 東西四大学合唱連盟第2回演奏会で合同合唱を指揮。
同志社グリークラブとの出会い
- 冬 「東京コラリアーズ」本格的な活動を開始
- 1954 (28歳) 4.29 バルトーク《青ひげ公の城》、プッチーニ《ジャンニ・スキッキ》を指揮、日本初演(藤原歌劇団青年グループ)
- 5.29 大阪・朝日会館でマスネー《マノン》を指揮。初めてグランド・オペラを指揮する
- 12.5 藤原歌劇団青年グループを指揮し、モンテメッツィ《三人の王の恋》を日本初演
- 1955 (29歳) 3.28 東横ホールに於て藤原歌劇団公演《未完成交響楽》で指揮者デビュー
6. メノッティ《霊媒》を指揮、日本初演。(藤原歌劇団青年グループ)
- 1956 (30歳) 4.13 産経ホールに於てマスネー《タイス》を指揮。藤原歌劇団常任指揮者となる
- 8.9 四ヵ月に渡る藤原歌劇団第三次渡米公演に同行
- 1957 (31歳) 4.9・10 プッチーニ《蝶々夫人》を指揮
5. メノッティ《アメリカ舞踏会へ行く》を指揮、日本初演
《スール・アンジェリカ》日本初演(藤原歌劇団青年グループ)
オーベル《フラディアボロ》完全初演。オーケストレーションと指揮
8. ロッシーニ《セヴィリアの理髪師》を指揮
- 10.11 二期会研究生卒業公演、清水脩《炭焼姫》、《セロ弾きゴーシュ》の初演指揮

1958(32歳) 7.	ベルゴレージ《奥様女中》日本初演指揮	1980(54歳)	藤沢男声合唱団設立。常任指揮者となる
1959(33歳) 2.	第2回NHKイタリア・オペラ公演に日本側指揮者として参加 男声合唱のスタンダード曲集『グリークラブアルバム』 (カワイ楽譜一現・カワイ出版刊)を編纂・出版 法政大学混声合唱団(「アカデミー合唱団」の前身)の 常任指揮者となる 西南学院グリークラブの指揮者に迎えられる	9.23	藤沢市民オペラ、ビゼー《カルメン》 神奈川県民功労者として表彰される
8.	藤沢市民交響楽団創立に際し、常任指揮者となる 元・藤沢市長葉山峻氏との親交始まる 二期会に客演、《セヴィリアの理髪師》を指揮	1981(55歳) 5.31	福永陽一郎ファミリー・コンサート「陽ちゃんと一緒」 開催される(於 藤沢市民会館小ホール)
1960(34歳) 6.19	藤沢市民交響楽団第1回定期演奏会	1982(56歳)	法政大学アカデミー合唱団ヨーロッパ演奏旅行(第8回 ヨーロッパカンタートに参加)に同行
10.	二期会公演オッフェンバック《ホフマン物語》訳詞・指揮	1983(57歳)	著書『私のレコード棚から』(音楽之友社刊)出版
11.2	ワグナー《ニュルンベルクのマイスターシンガー》日本 初演の合唱指揮、副指揮	8.	腎不全のため4週間にわたり藤沢市民病院に入院
1961(35歳) 2.22	藤原歌劇団《セヴィリアの理髪師》指揮	10.	藤沢市民オペラ、ロッシーニ《ウイリアム・テル》
9.	第3回NHKイタリア・オペラ公演に日本側指揮者として参加 同志社グリークラブ技術顧問となる	1984(58歳) 1.	以後、人工透析を続けながらの演奏活動となる
1962(36歳) 7.23	藤原歌劇団、メノッティ《領事》を指揮 九州各地でプッチーニ《トスカ》を指揮(8回) 関東各地でプッチーニ《トスカ》を指揮(14回)	1985(59歳) 3.	著書『続 私のレコード棚から』(音楽之友社刊)出版
1963(37歳) 5.6	日本縦断公演、ビゼー《カルメン》を指揮	11.	藤沢市民オペラ、ヴェルディ《アイダ》
10.	第4回NHKイタリア・オペラ公演に日本側指揮者として参加	1986(60歳) 9.13	福永陽一郎還暦記念コンサート「陽ちゃんといっしょ」 開催される(於 新宿厚生年金会館大ホール)
12.15	ヨハン・シュトラウス《こうもり》東京公演指揮	1987(61歳)	神奈川県文化賞受賞
1964(38歳)	ビゼー《カルメン》東京公演指揮(20回)	1988(62歳) 10.	藤沢市民オペラ、ヴェルディ《椿姫》
12.	藤原歌劇団を退団。この年までに27演目を指揮	1989(63歳) 12.9	法政大学アカデミー合唱団第29回定期演奏会
1965(39歳) 6.13	ショスタコーヴィッチ《十の詩曲による六つの男声合唱曲》 編曲・初演(同志社グリークラブ)	12.16	同志社グリークラブ題85回定期演奏会
1967(41歳)	第5回NHKイタリア・オペラ公演に日本側指揮者として参加	1990 2.10	心不全のため藤沢市民病院で召天。享年63歳 藤沢市斎場に於て、2月11日、12日と葬儀がとりおこなわれ、 神戸市鶴越墓園に眠る
1969(43歳) 4.	肺結核のため横浜の国立結核療養所に入院(9月まで)	1990 10.	生前、全力を傾けていた藤沢市民オペラ、グノー《ファ ウスト》が多くの人の協力により演奏された
1970(44歳)	藤沢市教育委員長より文化功労者として表彰される	1991 2.10	福永陽一郎追悼演奏会「陽ちゃんといっしょ」開催(於 東京芸術 劇場大ホール)。福永陽一郎記念レリーフ制作基金協賛者を 募る。レリーフは、藤沢市民会館入り口に飾られている
1971(45歳) 11.2	小田原男声合唱団発足。指揮者に迎えられる	2.24	「合唱指揮者の系譜 vol.1<福永陽一郎 人と音楽>」開催 (於 日本都市センターホール)
1972(46歳) 8.15	藤沢市文化担当参与となる	1996 4.21	福永陽一郎生誕70年記念コンサート「陽ちゃんといっしょ」 開催(於 紀尾井ホール)
1973(47歳) 5.26	東京交響楽団を指揮、シベリウス《交響曲第二番》他		『福永陽一郎 演奏ひとすじの道』(CONDUCTOR編集部刊)出版
10.10	第1回藤沢市民オペラ、モーツァルト《フィガロの結婚》	2001 10.14	福永陽一郎メモリアルコンサート&回顧展「陽ちゃん といっしょin 藤沢」開催(於 藤沢市民会館大ホール)
12.23	小田原でベートーヴェン《交響曲第九番》を指揮(東京 交響楽団)	2010 2.10	『CONDUCTOR 福永陽一郎』(CONDUCTOR編集部刊)出版
1974(48歳) 4.15.16	同志社グリークラブの第4回世界合唱祭参加に同行	2015 10.24	福永陽一郎先生没後25周年記念チャリティー・オペラ コンサート開催(於 藤沢市民会館大ホール)。コンサートの 収益金は、藤沢市民会館大ホール前の記念石碑の制作・ 設置費用にあてられた
8.	再び発病	2026 1.10	福永陽一郎生誕100年記念コンサート「陽ちゃんといっ しょ」開催(於 藤沢市民会館大ホール)
12.6	同志社グリークラブ70周年演奏会		
12.22	藤沢市民交響楽団、ベートーヴェン《交響曲第九番》指揮		
1975(49歳) 5.3	第24回東京六大学合唱連盟定期演奏会で、早稲田大学 グリークラブを指揮。		
	1977年から1990年まで同団を指揮		
10.12	藤沢市民オペラ、ロッシーニ《セヴィリアの理髪師》		
11.24	法政大学アカデミー合唱団を率い、第28回全日本合唱 コンクールで金賞受賞。		
	1977年まで3年連続金賞		
1976(50歳)	藤沢市長より音楽振興について表彰される		
1977(51歳)	湘南コール・グリーンズの常任指揮者に迎えられる		
1978(52歳)	著書『演奏の時代』(紀伊國屋書店刊)出版		
1979(53歳) 3.11	藤沢市民創作オペラ、三枝成彰《竜恋譜》初演 JAC(Japan Academy Chorus)を北村協一氏と共に主宰 メンバーシップ制による新しい試みとして話題になる		
5.	早稲田大学グリークラブの第7回ヨーロッパ・カンタート 参加に同行		

*早稲田大学グリークラブOB川元啓司作成の年譜
(『演奏ひとすじの道』掲載)をもとに、福永陽一郎
生誕100年記念コンサート実行委員会作成

これまでの陽ちゃんといっしょ演奏会

◇1981年5月31日

福永陽一郎ファミリー・コンサート
陽ちゃんといっしょ (於 藤沢市民会館小ホール)

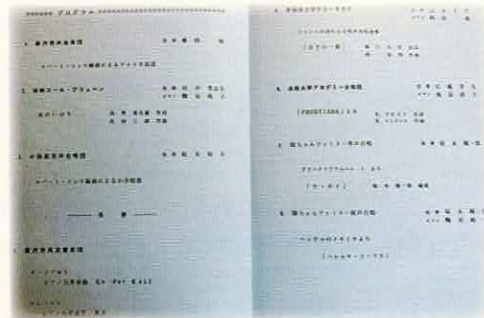
福永陽一郎

ファミリー・コンサート
“陽ちゃんといっしょ”

昭和56年5月31日(日) 2:00PM
藤沢市民会館小ホール

陽ちゃんファミリー男声合唱演奏曲
I. ギイツ 福永陽一郎編曲《ウ・ボーイ》
指揮 福永陽一郎

陽ちゃんファミリー混声合唱演奏曲
G.F.ヘンデル《ハレルヤ・コーラス》
指揮 福永陽一郎 ピアノ 鞠谷 純子



◇1986年9月13日

福永陽一郎還暦記念コンサート
陽ちゃんといっしょ (於 新宿厚生年金会館)



福永陽一郎還暦記念コンサート
陽ちゃんといっしょ

合同演奏曲
安田二郎 作詞 J.シベリウス《フィンランディア》
指揮 福永陽一郎 オーケストラ 藤沢市民交響楽団



◇1991年2月10日

陽ちゃんといっしょ

福永陽一郎追悼演奏会
陽ちゃんといっしょ (於 東京芸術劇場)



福永陽一郎追悼演奏会

昭和66年2月10日(日)
東京芸術劇場

合同演奏曲
G.フォーレ《レクイエム》
指揮 北村 協一 オーケストラ 藤沢市民交響楽団



◇1996年4月21日

福永陽一郎生誕70年記念コンサート
陽ちゃんといっしょ (於 紀尾井ホール)



福永陽一郎生誕70年記念コンサート
陽ちゃんといっしょ

1996年4月21日(日)
紀尾井ホール

合同演奏曲
安田二郎 作詞 J.シベリウス《フィンランディア》
指揮 北村 協一 オーケストラ 藤沢市民交響楽団



◇2001年10月14日

福永陽一郎メモリアルコンサート&回顧展
陽ちゃんといっしょin藤沢 (於 藤沢市民会館)



陽ちゃんといっしょ合唱団演奏曲
J.ブラームス《運命の歌》
指揮 畑中 良輔 ピアノ 久邇 之宜

合同演奏曲
安田二郎 作詞 J.シベリウス《フィンランディア》
指揮 小久保 大輔 オーケストラ 藤沢市民交響楽団





福永陽一郎先生一歳の頃

主催：藤沢男声合唱団

後援：藤沢市教育委員会 藤沢市合唱連盟